

わたしに向かつて『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天に
おられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。

マタイの福音書 7章 21節

このみことばに触れると、自分は主のみ
こころを行えているだろうか？と問われま
す。口先だけで行動が伴わない者ではな
いように願います。しかし、みことばを読
むと、事は単純ではないと思うのです。

22、23節には、口先ばかりでみこ
ころを行わずに退けられた人々が描かれてい
ます。彼らは「主の名によって行動した」人々
でした。何もしなかったのではありませ
ん。みことばを語り、悪に立ち向かい、驚くべき
業を行ったのです。「口先ばかり」と言う
と、「怠慢」「やるべきことをやらない」「問題行

動をする」という印象を持ちがちです。とこ
ろがここで言われる人々はそうではなく、
よく行動し正しさを求める社会的に真面目
な人々で、人間的には熱心な信仰者と見え
る人々です。その人々が「不法を行う者たち
」と退けられているのです。

彼らの何が問題だったのでしょうか？

それは彼らが自分の行いを誇ったこと
です（22節）。「自分は天の御国に入るに足
る行いをした」という自己義です。神中心で
なく自己中心な考え方で、そこに神の御心
になかった生き方は伴わないのです。

「不法を行う者たち」（23節）の引照と
してマタイ25章41節が示されています。
そこ（31～46節）には終末に関する「羊
とやぎのたとえ」が記されており、やぎは

「のろわれた者ども」と言われて退けられ
ます。彼らの問題は、人々に愛と憐れみを示
さなかったことです（45節）。神への信仰
は他者への関係に証しされることが望まれ
ます。私たちが神に仕えると言って熱心に
奉仕をしたとしても、それが自分の傲慢に
なったり、同じようにできない人を責める
ならば、それは主のみこころに生きるの
ではなくパリサイ人たちの姿に通じます。

大切なことは神の前に自分を省みて
（7章1～5節）、自分には神の助けが必要
であることを認め、神を求めることです。

【報告 消息】

・大雨被害の地域のために祈りましょう
先週は静岡県で警報が出るなどして沼津シオンのことも多くの方が案じました。荻野倍弘牧師より連絡があり、沼津シオン周辺は地域再開発事業の一環で周辺河川や排水設備が改修されて無事とのこと。しかしながら沼津市西部では河川が氾濫して教会関係者の自宅周辺が水浸しになり、また東部では橋が崩落し今後の物流・生活への影響が懸念されるそうです。沼津や大きな被害の出ている熱海、中国地方など水の被害が出ている地域とそこにある教会のために祈りましょう。

・第63回シオン霊修会

日程 9／19（日）～20（月）

会場 プラザヴェルデ コンベンション沼津

（JR沼津駅徒歩、沼津シオン目の前）

講師 岩上敬人師（JEA総主事、インマ

ヌエル綜合伝道団）

テーマ「キリストのことは豊かに」

雨模様でしたが支えられて予定通りに行いました。そのほか、5名の召天者関係の方々が墓地をお訪ねくださいました。

背後でのお祈りを感謝します。

ディスタンスを十分に確保できる大会場、シングル中心の宿泊、オンライン配信などコロナ対応で計画しています。

近日、詳細をお知らせします。